

令和7年度 第1回学校運営協議会 議事録

1 日 時 令和7年5月1日（木） 15:20～16:30

2 場 所 盛岡第三高等学校 大会議室

3 出席者 11名/13名

（自治会代表、PTA 代表、行政関係、近隣小中学校長、地元企業、同窓会代表、本校校長）

阿 部 俊 之 海 野 尚 小 澤 則 幸 櫻 裕 子 千 田 幸 喜
藤 村 誠 觸 澤 吉 輝 松 村 修 平 村 井 由紀子 山 口 真 樹
菅 野 幸 貴（校長） （委任状提出者 土川 敦、高木 浩一）

（オブザーバーとして、校内委員（副校長、事務長、各分掌主任）11名、生徒会役員3名が出席）

4 内容

（1）議題

- ア 会長、副会長選出
- イ 学校経営計画について

（2）協議内容

- ア 会長、副会長選出

【副校長】会長・副会長の選出について、どなたか「是非に」という方はおりませんか。では、事務局案として、本日、参加されてはおりませんが、昨年度に引き続き、土川敦様をお願いしたいと考えておりますがいかがでしょうか。

（異議なし）

土川様には、あらかじめ連絡を入れさせていただき、「皆様のご異議が無ければ」とお話を得ておりますので、事務局案のとおり進めさせていただきます。また、副会長は、昨年は、緑ヶ丘小学校の校長先生をお願いしておりました。今年度は、黒石野中学校の千田校長先生をお願いしたいと考えておりますがいかがでしょうか。

（異議なし）

それでは、副会長も事務局案どおりということで進めさせていただきます。

- イ 学校経営計画について

【副校長】それでは協議になります。本来であれば会長が議長を務めるということで進めるわけですが、本日は、ご不在です。また、副会長の千田先生も新規ということでもありますので、このまま事務局側で進めるという形をとりたいと思いますがよろいしでしょうか。

（異議なし）

【議長】では、進行させていただきます。協議題、学校経営計画について、説明願います。

【校長】それでは今年度の学校経営計画案を説明します。昨年度から変更した点を中心に説明します。今年度の1年生から本校は、進学型単位制を導入し、あわせて「総合的な探究の時間」「おとり・リサーチ・プログラム」というものに取り組んでおります。そこでスクールポリシー

のグラデュエーション・ポリシーの3つめにSRH事業及びORP（おとり・リサーチ・プログラム）を追加しています。カリキュラム・ポリシーでは、進学型単位制の導入によりという文言と、習熟度別授業というものを追加しました。アドミッション・ポリシーに関しましては、わかりやすくするために、それぞれ最後に生徒という語を付け加えました。魅力化共同パートナーについては、昨年度同様、学校運営協議会の皆様や交流のある大学、学校、企業等を入れています。目指す学校像については、重点目標アからカまで基本的には変わっておりません。ただ、オは、学校いじめ対策組織によるいじめの未然防止・適切な対処と簡潔な表現にしております。それから達成指標については、オの「本校に入学して友人関係が良くなった」と答えた生徒の割合が昨年度までは75%以上としていましたが、昨年度の数値が87.8%、R5年度、R4年度も80%を超えていたのでこれに関しては75から80に上げました。取組方針については、授業改善と学習指導の充実のための取組みに関して、生徒が質問しやすい環境の構築を追加しました。これは昨年度の第3回の学校運営協議会でご意見をいただいたものです。教育活動に関するアンケートにおいて、授業に対してわかりやすさを望んでいるということから、この質問しやすい環境を整えていくということの方針として組み込んでおります。また、先ほどの説明同様SRH事業にはORPを追加しています。以上、ご協議願います。

【議長】令和7年度の岩手県立盛岡第三高等学校学校経営計画について、委員の質問・意見をいただきたい。本会の協議を経て公表するという段取りになっています。

【委員】資料の「おとり・リサーチ・プログラム」とは、どういうものなのか教えてほしい。

《経営企画担当》教育課程の中に「総合的な探究の時間」というものがあります。その活動を充実させるという意味を加えまして学校独自に命名したものです。これまでも実施してきているものですが、新たにおとり・リサーチ・プログラム（通称ORP）として、特にリサーチの部分を充実させようということで命名したもので、あえてORPと名前を付けることで、対外的にも充実させていこうというものです。今までは、「総合的な探究の時間」を1時間の履修としていたものを、単位制に伴って今年度の1年生が来年度2年次で、「総合的な探究の時間」を1時間だけの履修と2時間履修ができるコースを設けることとしています。このORPも一つの特色、売りとしていこう、取り組んでいこう、ということで設定したものです。

【委員】改めて進学型単位制の詳細をうかがいたいことと、もう一つはこの春実施した特色入試について、今年度何名の生徒がどういう内容で入学されたのか教えてほしい。

《教務担当》まず特色入試につきましては、募集定員14名、定員280名の5%ということで、募集定員は14名です。入試の内容については、これまで本校でサイエンス・リサーチ・ハイスクール事業を実施してきた経緯を踏まえ、科学的な思考力・探究力を養いたいということで、入試でも、数学の口頭試問を受検生に課し、それをもとに検査・選抜を行いました。

次に、今年度から動き出しました進学型単位制につきましては、これまでの三高の学校の魅力をさらに充実させるような形で、進路実現に向けて科目選択ができるようにしています。例えば、東京大学の受験には地歴科目が2科目必要になるのですが、これまでの本校のカリキュラムでは地歴科目を2科目取れるようなカリキュラムではなかったので、これを2年生から選択できるよう科目を増やしています。まだ、今年度1年生からなので、実質的にはまだスタートしていないのですが、多様な生徒の進路に対応したいと考えています。この他、芸術科目とか、体育とか、生徒の希望に合わせて選択できるような形になっております。

その他、大きなメリットとしては、職員数が増え、より多くの先生方が配置されるということ

です。今年度は4名の先生が配置されています。つまり、実質4名の先生方が多くなっております。そこで、通常であればクラスごとで授業をやるところを、1年生では2クラスを3つに分けて、通常40名程度の授業を20数名の授業にして、少人数での授業を実施しています。先ほど校長から説明があったとおり、質問がしやすい状況をいかに作るかということで、少人数としています。今後、学年が上がっていくにつれて、習熟度別のような形で生徒個々に応じた指導ができるようにしております。単位制は1年生からスタートしたのですが、職員定数が増えたことを生かして、在校生にもメリットがあるような形で、学校内のシステムを作っているところです。

【議長】 そのほか、ご質問等はございますか。引き続き進行しながら質問いただくことにして、協議ということですので、学校経営計画としてこのような形で今年度進めさせていただくことで承認いただけますでしょうか。

(異議なし)

【議長】 では、承認いただいたということで進めさせていただきます。

(3) 意見交換

※意見交換に先立ち、副校長から学校概況説明（割愛）

【議長】 何かご質問ございますか。参加型授業に関して、一通り、説明したわけですが、生徒さんはどうですか。この先生方の取り組みに対していかがですか。

【生徒】 資料を見て、何となくこれは多分あの先生だになってというのはわかった。こういうことを考えて私達に授業をしてくださっているのだと、一人の生徒として感じる事ができました。

【議長】 良い方向で分かってくれたということでいいですか。そのほか、何かございますでしょうか。では、続けて生徒会の立場でということで、この今年の取り組みなどについてお話いただきます。

【生徒】 では私から、生徒会長という立場からお話しします。生徒会執行部で議事をあげたときに司会は議長が務めるので、執行部の生徒は、代表の言葉や始めとか終わりの挨拶をできるだけ問題なくこなせるよう、生徒が執行部を経験して、2・3年生関係なく、3年生は2年生のお手本になるような経験をして、生徒会主導の会では自分たちから動けるようにというのを考えています。

また、生徒の皆さんには、生徒会で決まったことをできるだけ早く伝えるということを心がけています。今年は、生徒総会が再来週に行われるのですが、その議案書を今年初めて、試験的な導入ではありますが、紙媒体の配布は無しにしてデータ配信という形で行ってみました。今回、実施してみて、どういう利点があったとか、欠点があったとかというのをそれぞれ感じることができれば、来年度からの運営について有効だと感じています。ただ続けたいとだけいうのではなく、紙媒体とデータ配信のどちらも経験している2年生に、これからどうするかというのを考えてもらうという意味でも今回、新しく試験的に配信できたのはよかったと思っています。生徒総会では、いろいろな意見を受けて、納得した意見はできるだけその意見に応えられるように先生方と話し合っただけ進めていきたいと思っています。またルールの改正など、なかなか実現が難しい意見でも、「それがルールだから」とか、「今までもそうしてきたから皆さん従ってください」というのではなく、できるだけ質問や意見を受けた生徒たちが納得できるよう

な答えをしっかりと答弁していきたいと思っております。

【議長】ありがとうございます。その他、補足はないですか。

【生徒】最近の三高はいろいろとルール改定のようなものが続いていて、例えば最近だと、靴下の色とか、あとはスマートフォンの利用について結構変わってきている。けれども、最近感じるのは、その自由の履き違えが、下級生に多く見られるように感じています。例えば、カラーコンタクトを付けていた生徒がいたとか、生徒総会の生徒会に対する質問意見で、ジャージ登下校を可にしてほしいとか、自販機の電子決済を可能にしてほしいとか、そういうものが寄せられています。確かに、ここ最近、ルールが変わってきて時代の流れを読んで変わるというのがあったと思うのですが、なにか違うなと思います。何でもかんでも、何かを言えば変わるよと捉えられてしまっているように感じます。今一度ルールについて、自由についてということを見つめ直す必要があるのではないかと感じています。

【生徒】僕は、ちょっと違う意見になるのですが、僕は今の流れに合わせて過ごしやすい三高にしたいなと思っています。例えば今年から授業中にパソコンが使えるようになって、数学の時間とか、パソコンを使って問題の答えをより具体的なものを見たりして進めていくということができるようになりました。他のクラスでもタブレットを使って授業を行うことで、板書をタブレットにして、ノートをなくすことで、図とか丁寧に書けるようになっていきます。それはとてもいいことだと思うけれども、授業に合わせた目的で用いている人もいれば、全然違うことに用いたりする人もいるのが現状なので、そういうのをなくしていきたいと考えています。ただ、それに対する対策のようなものは、まだ自分の中には無いのですが、難しいとは思いますが、そういう空気とかを作って、授業は授業でしっかり臨めるような、そんな学校にしたいなと思っています。また、ジャージでの下校については、本校では原則禁止となっています。それは、清潔さを保つためというのが大きな理由なのですが、運動部のそれこそ野球部とかはすごい汗をかきます。その汗をかいた後に制服着て帰るのは汚くなったりするのかなとも思います。なので、難しいところではあると思うのですが、過ごしやすい三高を作る上で、そのようなルールやモラルとも遵守できるような、そんな学校にしたいなと思っています。

【委員】 PTA というか保護者の目線で見えて感じる事なのですが、三高生に限らずやはり、なぜルールを守らなきゃいけないのか、ルールを与えられるだけではなく、そういうことには意味があることを生徒自身が理解すればもう少し改善されていくのでは。例えば登下校時の制服スタイルについてや自転車運転中の並走とか、なぜそういうふうにルールを守らなきゃいけないかということを身をもってわからないと、改善というのは難しくなってくるのかなと思う。三高生は素晴らしく個々人でも挨拶してくれたりするのですが、やはり全ての生徒ではない。そこはやはり生徒自身がしっかりと共通認識として三高生らしく、地域の人たちから見られているっていう意識を持ってくればいいのかと思います。

【議長】地域の方々から見てという部分で、委員の立場で一番近くで見ていただいているところで何かございませんか。

【委員】私は個人的に三高さんが好きですので、挨拶とかもいいというものもありますけど、学力の面と運動面での活躍の仕方、あとは何よりも卒業生の方達が、とにかくいろいろな会で音頭を取って盛り上げてくれる。三高の方の人間力をいつも感じていた。本当にバランスのいい学校だなと思いながら見ています。いろいろなところで中心になってくれるというイメージしかないのです。とにかくそういうことを育てているという学校の雰囲気が、学力だけではなく部活

にも一生懸命だから起こっているのかなと思います。これからもあえて爽やかにやれというわけではないけれど、やはり爽やかなイメージの三高生なのだろうと、そういうところは失って欲しくないなと思います。

あとは資料を見ての感想ですが、この参加型授業というのは、どういうものか。私は小学校の先生をやっていたので、問題解決型学習ということで子供たちにどんどん考えさせなければと、それを一つねらいながらやるのがよしとされていたので頑張ってきたわけですが、どうしても進度が遅くなることが多かったです。教えなければならない内容が決まっている中で、事前の準備や教材研究が重要になってくると思います。受験とかも照らし合わせた上でやっぱりこの参加型授業というのが、効果があるということで導入しているものなのかお聞かせ願いたい。いわゆる受験ということで点数を何点とかというような感じで考えたときに、果たしてこれがいいのかと、いいということで導入しているのか。また、国公立大学での推薦入学、そういうのとかでもいかしていけるということで、その参加型授業が今一生懸命いわれているのかというところを聞きたい。

《進路担当》今年度、国公立大学の推薦についてですが、学校推薦型選抜と総合型選抜とよばれるものですが、33名の生徒が合格しております。例年と比べますと多い形になっています。学校推薦型選抜・総合型選抜というのは学力を課すところもあるのですが、基本的には面接であり、そのほかプレゼンテーションということもあります。各大学は今アドミッション・ポリシーということで、求める学生像を打ち出していますので、それに合致した学生ということで自分の思いとかを言語化するという能力がすごく求められています。ですので、この参加型授業は自分の思考を言語化して相手に伝えるという意味では、そういった特別入試には結構大きいものと考えています。言語化するということが共通テストはマークシートですが、テストの内容で会話型というか、そういった問題もあったりするので、授業でクラスメイトと話すことを通して、思考を練り上げていくということは受験にも十分資するものだと考えております。

【委員】ありがとうございます。わかりました。時代に合っている流れなのですね。

【委員】卒業してから10何年くらいたち、教育実習でお世話になりました。結局、先生にはならずということになっております。そのときから見てもやはり生徒さんの学習環境が大きく変わっているのだなと感じました。今は、生徒さんが話していたように、授業中にパソコンを活用するなどICTを活用していることで大きく変わったと認識しました。生徒会活動で、資料を紙で配っていたものをデータで配ったと、これも大きく環境が変わりつつあるのだと感じました。参加の生徒さんがおっしゃっていただいたように、何でも変えられるのだというような形だけでなく、ルールにもちゃんと意味があるということを皆さんが意識していただいている。今年から生徒総会の資料とかを電子ファイルで配ってということで、どんな形で今年のこの結果を締めくくっていききたいなと考えているのか。例えばこれからやってみたい何かあるいは見通しとか計画があれば教えていただきたい。

【生徒】三高は現在、生徒総会が1回しかない状況なので、年に1回しかないという状況でいいますと、やはり文化祭とか体育祭とか、来週の生徒総会が終わった後にある行事などは意見が出づらい状況があります。例えば去年の三高祭や体育祭に出た意見を、今年度の次の年の生徒総会に出したとしても、もう遅くて意見を反映させることができないということも多々ありました。もう1度生徒総会を開くというのは時間的に難しいので中央委員会を1度開くとか、そう

いう対策をしていければと思っています。電子媒体での配布についてはまだアンケートを取るとかは考えていなかったのですが、とりあえず生徒総会が終わるまで、執行部が各クラスにいる状況にしているので、そこで生徒はどのように生徒総会に臨んでいるのかを確認したいと思います。その後、執行部でどのように考えて行くのか話し合っていければと思っています。

【委員】感じたところと、一つ質問です。まず感じたところとしては、参加型授業を行うことで培われる自由の履き違えとか、何でも言いたいことを言えればいいというものではないという部分で、でも表現をしていくことも大事だったりするのだろうなと。どちらを取るかという部分で難しいんだろうなと。生徒の方々が率直に自分の意見を自分の言葉でお話できる環境というのは、築き上げていかなければならないのだろうなというのを感じました。また、感じたところとしては、先生が評価される時代なのだというのを率直に思いました。生徒の通知表をつけるだけではなくて、先生も点数をつけられていく中で、先生方もご苦労とかもあるのかなと思いました。そのあたりの質問なんですけど、どのように評価をつけられているのかな、どういうふうに感じているのか集まっている先生方から聞いてみたいなと思います。

《教務担当》先生方の授業評価については年2回とっております。生徒の定期考査のタイミングに合わせて6月と11月です。2回行って、副校長先生がデータを整理して、先生方1人1人に個票という形で、レーダーチャートで渡されます。内容については、私8年目になるのですが、高校1年生の最初の授業評価は少し低く出ます。授業の進め方とか、高校の授業に慣れるという部分で少し段差が大きい部分があるのかなと思っています。授業の中で工夫しながら、中高の段差がなくなるように意識しながら進めています。生徒による評価で意識したのは授業の構成でした。そういうきっかけがあって、研修などで中学校の公開を見に行った際に、授業の構成を見るきっかけにもなりました。またそれぞれの先生のところでは次の教材研究とか授業改善に生かしているのではないかなと思います。

【委員】参加型授業の紹介例で、生徒の評価について、評価の高い先生方という表現がありますが、評価の基準がどういう基準になっているのか。生徒はどのような基準で答えているのか疑問に思いました。参加型授業ということで、シンプルに時間内に理解すべきことをわかりやすい授業をするというところの観点なのか、生徒が参加しやすいような環境であったり発問であったり、授業の構成ということに対する評価なのか。そうすると乱暴な言い方すると理解の方はそっちのけでも生徒が参加できれば評価ができるというようなものなのか。恐縮ですけど、そういったところはどのように評価の基準を設定されているのかなというものが少し気になりました。

あとは、様々な生徒さん達が主体的な取り組みを進めているというところを、学校として様々な後押しというか積極的に取り組んでいらっしゃるところに非常に好感をいただきました。生徒と同じ方向を向いて進んでいるなど感じました。

【議長】アンケートの観点については、いくつかの質問項目に対して、その授業に対して、生徒たちがどの部分に当てはまるかということで選んで、多面的に一方からの見方だけではなく答えていると認識していますけれども、参加の生徒さんはどうですか。実際に、先生方を評価してみたところで、何か感じているところはありますか。

【生徒】評価が一つの質問ではなくて、例えば、授業50分内に収まればいい授業だったかとか、関心意欲が高まったかとか、わかりやすかったかなど、いくつかの質問があって、それぞれに5段階の評価をつけています。その中でやはり、普段私達も授業に関してあんまり授業自体を

振り返ることはなかなかないのですが、アンケートの機会に自分に教えてくださっている先生方の授業を振り返っていきたいと思いますし、何がわかりやすい授業なのかっていうのを振り返ることができるのかなと思っていて、例えば数学とかで アンケート回答するときに、この先生はわかりやすかったなって思うことで自分がそういう授業が好きなのだとか、自分に相性がある授業を見つけられるきっかけになったというところがあります。逆に言えば、自分はそういう授業のやり方はちょっと苦手かもしれないからといって、自分の自主学習にも、ある意味繋げられるという、生徒たちにとっても授業を見つめ直すっていう機会になっていると私は思っています。

【委員】 今日には予定時間を越えてご審議いただきましてありがとうございます。私は、この時間がすごく有意義だったなというふうに思っています。校長先生の経営計画に係るご説明では、今年1年、職員、それから地域保護者、生徒、一体となって進んでいくという意気込みを強く感じたところです。昨年度から変えた部分というところで、進学型単位制であるとか、習熟度別授業を取り入れるという一人一人の生徒を大切にしていこうとする先生方の意気込みを感じたところです。また、その根底にあるのが生徒を主役にするという考えだということも強く印象に残ったところです。この会が生徒会も加わっての会だということで、非常に貴重だなと思いました。学校運営に生徒の声を反映させていくということはよく言われることなのですが、このように具現化して取り組まれているところは、非常に貴重だなと思いました。さらには生徒会長さんが話された中で私が印象に残ったのが、生徒会の答弁での全校生徒の皆さんの納得感、表現に対する納得感というところは、これから様々な方とお付き合いしていくときに、合意形成ということが大事になってくるわけですが、そういったことに重きを置いていることではないのかなと思いました。加えて生徒さんの発言の中でも、様々な実態があって解決に向けて今後こういう規制をどうとっていったらいいのかというところに問題意識を持っていることにも感激したところです。これから1年ますます発展していくのではないかなというふうに期待を大きくした時間でした。ありがとうございます。

【議長】 貴重なご意見ありがとうございます。本日は以上で閉会とさせていただきます。